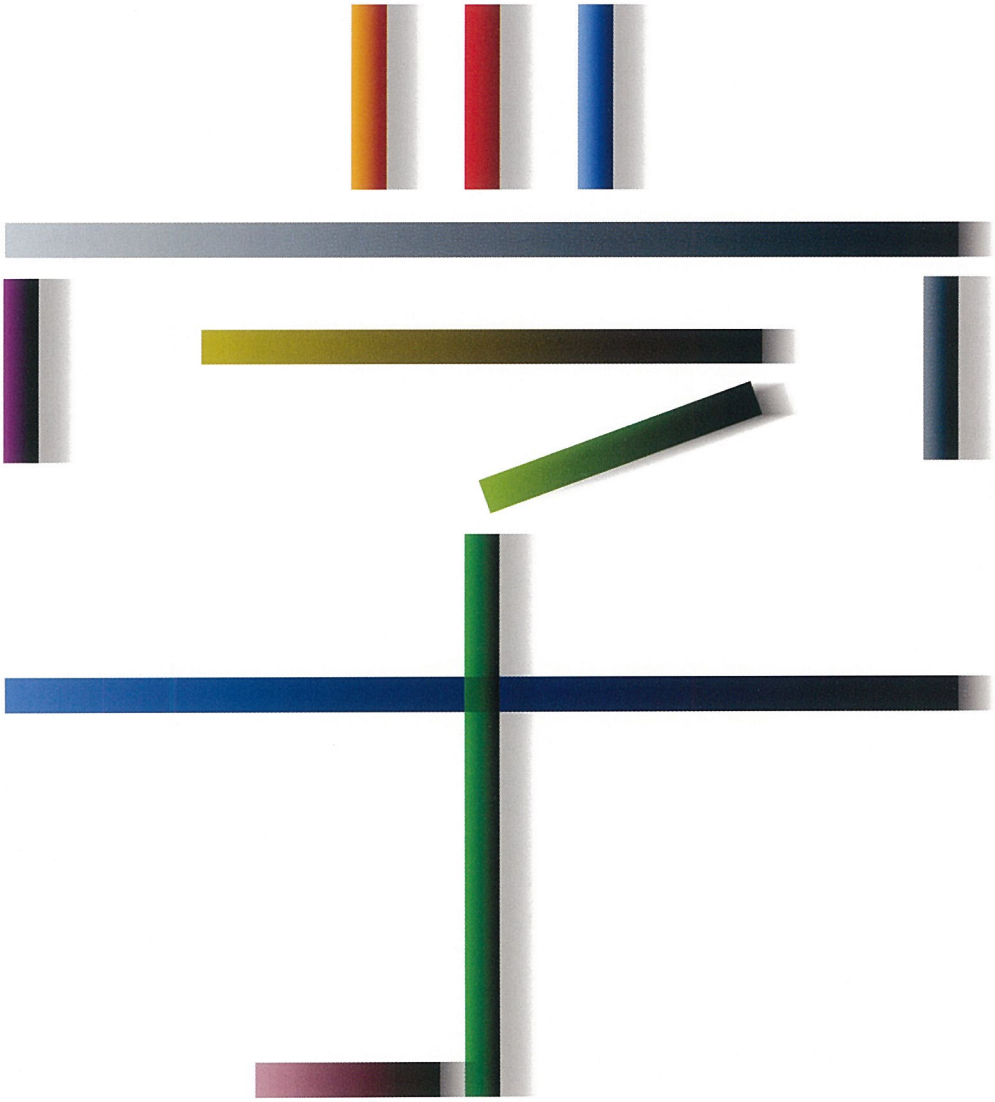
東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

東京大学教養学部附属教養教育開発機構　国際シンポジウム

教育から学びへ：大学教育改革の国際的潮流

Good Practices in College Education：International Perspectives



2010.2.19.fri 13:00〜16:30 東京大学教養学部 駒場Iキャンパス18号館ホール 主催：東京大学教養学部附属教養教育開発機構

ごあいさつ

東京大学 教養学部附属教養教育開発機構 教授
山本　泰

教養教育開発機構は5年間、特色GPの取組として活動していた期間を含めると7年間、東京大学教養学部の教育開発に携わってきました。今年度でいったん「教養教育開発機構」という形は終わり、「教養教育高度化機構」としてまた新しく事業を推進していくということになります。ここを1つの区切りにして、皆さんとその成果を共有したり議論したりする場がほしいと思い、開催したのが本日のシンポジウムです。

この5年間は非常に忙しく、次から次へとさまざまなことに取り組んできました。しかしその都度思いつきでやっていたわけではありません。振り返ってみると、この時期には大きな教育パラダイムの変化というものがありました。この変化は、アメリカでは20年以上前に始まっていたものですが、日本では少し遅れて10年ほど前から次第に注目されるようになり、6〜7年ほど前からは「初年次教育」という名称で頻繁に言及されるようになりました。ひと言で言うと「教育から学びへ」という軸足の変化と言えるでしょう。

ものの見方の変化が世界的に起こり、それが日本にもさまざまな形で影響を与えた、そういう歴史の中にいたのではないかと思います。

本日ここには他大学の方や文部科学省の方もいらっしゃいます。そうした方々と一緒に、大きな流れの中で1回自分たちを点検してみようという趣旨のシンポジウムです。

教養教育に関わる取組の中で、私たちは何度もアメリカやアジア——ソウル大学とかシンガポール国立大学など——に行き、いろいろな先生と議論しました。東京大学にハーバード大学の先生を3人お呼びして、基調講演をしていただいたこともあります。そうして人的な関係を深めながら進めてきたわけです。今年度は、カリフォルニア州のUCバークレーと、スタンフォード大学、それから南カリフォルニア大学に行き、新しい、旬な教育の取組についてお話を伺いました。また、授業に参加させてもらったり、TAや学生とも話をしました。

南カリフォルニア大学は、もとはランキングで50番目くらいだったのですが、ここ十数年の間に35番前後まで急上昇しました。学部教育に力を入れることで力を増した大学なのです。そういう意味では私たちの取組と非常に共鳴するところがあります。本日はぜひ、そういう取組の中心になってこられたビッカーズ先生にお話を伺いたいと思っています。非常に勉強になる話が聞けると思います。

ビッカーズ先生にはアメリカの他の大学の取組などについてもご紹介いただきます。その後私が駒場の取組についてお話をして、そのあと教養学部長、東京大学の理事2人、それから米国のリベラルアーツ教育にたいへん詳しい松本健さんをゲストを迎えて、トム・ガリー先生の司会でパネルディスカッションをすることになっています。では最後までごゆっくりお過ごしください。良い時間になるように祈っています。

Contents

ごあいさつ

東京大学教養学部附属教養教育開発機構　教授
山本　泰

2

基調講演

学生中心の学びの推進
南カリフォルニア大学の改革と成果

南カリフォルニア大学　学部教育担当副学長
ジーン・ビッカーズ

5

報告

東大駒場の新しいパラダイム

東京大学教養学部附属教養教育開発機構　教授
山本　泰

15

パネルディスカッション

教育から学びへの転換：その課題と方法

ジーン・ビッカーズ（南カリフォルニア大学　学部教育担当副学長）
松本　健（グルー・バンクロフト基金常務理事）
小島憲道（東京大学理事・副学長）
江川雅子（東京大学理事）
山影　進（東京大学大学院総合文化研究科長・教養学部長）

モデレーター：トム・ガリー（東京大学教養学部附属教養養育開発機構　准教授）

25